

外国人観光客のレンタカー利用に係る交通課題 に関する調査・分析

—目的地までに見るもの・使うもの—

国土交通省 北海道開発局 建設部 道路計画課 ○角張 弘幸

西崎 涼真

パシフィックコンサルタンツ株式会社 北海道支社 金子 誠

近年、訪日外国人観光客数は回復傾向にあるが、受入環境が整わず、オーバーツーリズムが顕在化している。本稿では、北海道における外国人レンタカー利用に関する交通課題を、事業者ヒアリングと利用者アンケート、ETC2.0を活用した分析結果等を通じて紹介する。

キーワード：レンタカー、インバウンド、オーバーツーリズム、ETC2.0

1. はじめに

令和7年版観光白書によると、「外国人旅行者受入数ランキング」において、我が国は3,690万人（2024年）であり過去最高となっている。このように訪日外国人観光客が増加の一途で、受入環境の整備が追いついておらず、オーバーツーリズムによる問題が、全国の有名観光地だけでなく、その周辺地域にまで顕在化してきている（図-1）。

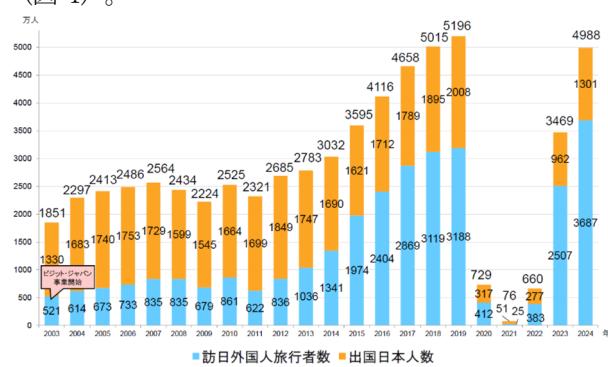
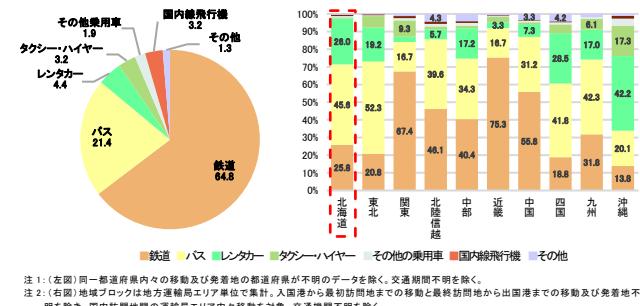


図-1 訪日外国人旅行者数の推移

このような状況を踏まえ、北海道における外国人観光客のレンタカー利用に係る交通課題に着目し、レンタカ一事業者へのヒアリングや外国人レンタカー利用者に対するアンケート調査を実施するとともに、ETC2.0プローブデータを活用した分析結果について紹介する。

2. 外国人観光客の現状

訪日外国人の日本国内での移動について、利用交通機関は鉄道が最も多く、次いでバスが多い。しかしながら北海道では、バスが最も多く、次いでレンタカーが鉄道とほぼ同数で多い（図-2）。



注1: (左図) 同一都道府県内の移動及び発着地の都道府県が不明のデータを除く。交通期間不明を除く。
注2: (右図) 地域ブロックは地方整備局エリア単位で集計。入国港から最初訪問地までの移動と最終訪問地から出港までの移動及び発着地不明を除き、国内訪問地間の各輸送方式内々移動を対象。交通後期不明を除く。
注3: 四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。
(出典) FF-Datta(2023年)より作成

図-2 利用交通機関の内訳 (全国/地方別: 2023年)

近年の旅行スタイルの傾向として、「団体客のバス利用」から「個人客のレンタカー利用」へと変化・増加が見込まれることから、これらの動向・交通課題等の把握を目的として、レンタカ一事業者へのヒアリングを実施した。

(1) ヒアリング項目の設定

調査は、保有台数の多いレンタカ一事業者の中から4社を選定・実施した。ヒアリングの内容は、外国人利用の特徴・傾向、不安内容・対応策、利用・受入環境の向上等とし、対面による聞き取りにて実施した。

(2) ヒアリング調査結果

外国人利用の特徴・傾向では、各社とも「新千歳空港店の発着・利用期間4～5日」が多く、「来日回数は複数回だがレンタカー利用は初めて」、という傾向が見られ、貸出件数は夏期に多い。不安内容・対応策では、日本の交通ルールに関する理解度に不安を抱えており、多言語対応の説明用チラシ・注意事項をまとめたガイド冊子、注意喚起の動画を送迎バス内で放映する等の対応策を実施されている。

3. 北海道における外国人レンタカーの利用状況

レンタカー事業者へのヒアリング結果を踏まえ、外国人レンタカー利用者の抱える交通課題を把握するために、アンケート調査を実施した。

(1) 調査概要

□居住地域：台湾、韓国、中国で全体の6割を占める一方、様々な国から北海道に来訪されていることが判る（図-3）。

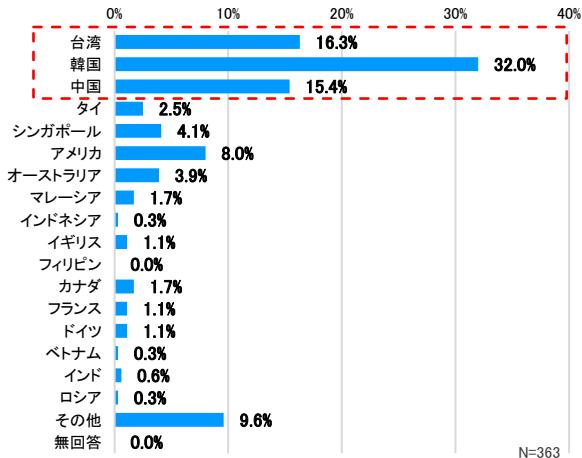


図-3 アンケート回答者の主な居住地域

□日本語の理解度：7割近くが「日本語の理解が難しい」と回答している（図-4）。

□レンタカー利用の95%が観光目的であった（図-5）。

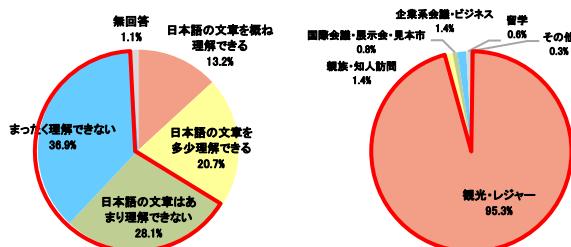


図-4 日本語の理解度

図-5 訪日の目的

(2) 利用頻度

訪日回数は10回以上のリピーターが多い一方、レンタカー利用回数は今回が初めての方が多い（図-6、図-7）。

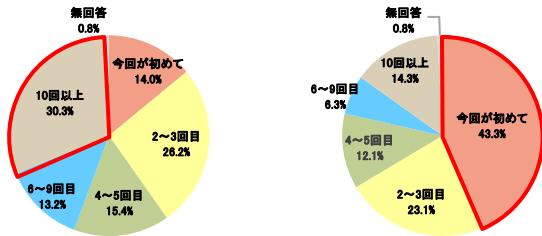


図-6 訪日回数

図-7 利用回数

(3) 交通ルールの理解度

約3割の利用者が日本の交通ルールの事前勉強をしないで運転しており、しなかった理由も楽観的なものが割合として多くなっている（図-8）。

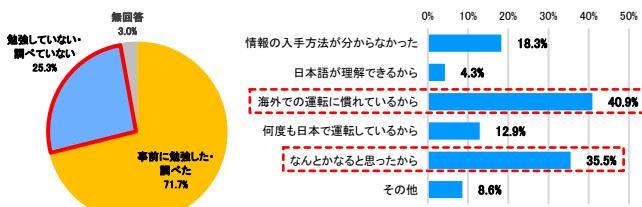


図-8 事前勉強の割合と勉強しなかった理由

(4) 危険を感じた体験

1割強の外国人レンタカー利用者が「運転中に危険な体験をした」と回答しており、危険な体験の内容は、反対車線への進入や右折時、駐車場での接触といった進行方向に係る回答が多いのが特徴的であった（図-9）。

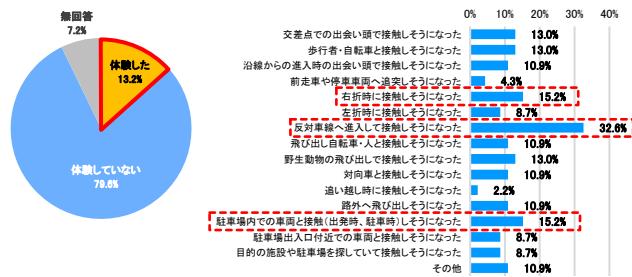


図-9 運転中の危険な体験と内容

(5) 目的地までのルート案内

目的地までのルート案内で最も多く利用されたツールは、「地図アプリ：オンライン」が挙げられており、「車のナビシステム」「案内標識」よりも多く利用されている結果となっている（図-10）。

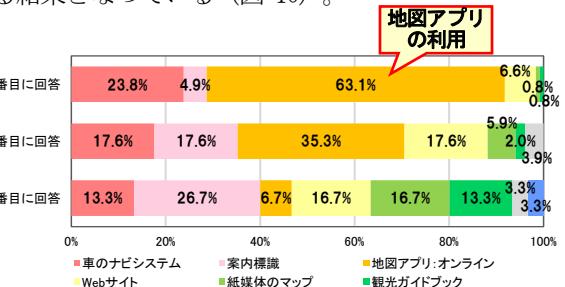


図-10 ルート案内で使用したツール

(6) まとめ

アンケート調査結果から得られた知見を以下に示す。

- 日本語は7割近くの方が理解できていない。
- レンタカー利用者は訪日リピーターが多く、今後移動手段としてレンタカーが増える可能性がある。
- 約3割の利用者が日本の交通ルールの事前勉強せずに運転している。
- 運転中に危険な体験をしたのは1割強だが、左側通行に不安を感じる方が多い傾向である。
- 冬道運転は8割以上が未経験の傾向である。
- 目的地までのルート案内ツールは、車のナビシステムではなく携帯地図アプリが多く利用されている。

4. 外国人レンタカー事故の発生状況

外国人レンタカーの交通事故発生状況を整理する。ここで使用する事故データであるが、交通事故発生状況に関する事故データは、一般的に(財)交通事故総合分析センター(以下、ITARDAという)を利用するが、外国人レンタカーに関する分類がない。今回は株式会社トヨタレンタリース札幌から提供いただいた事故データ(令和5年~6年の2年間)を用いることとした。

(1) 外国人レンタカー事故の概況

外国人レンタカーによる事故は、令和5年から6年にかけて約1.2倍に増加しており、そのうちの約9割が第1当事者となっている(図-11)。

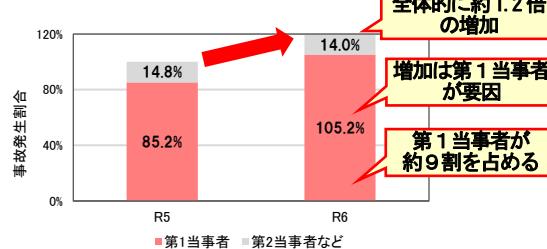


図-11 外国人レンタカー事故の当事者別

総貸渡台数に占める外国人レンタカー事故の発生率は2.2%で、日本人レンタカー事故の発生率(1.2%)の約2倍となっている(図-12)。

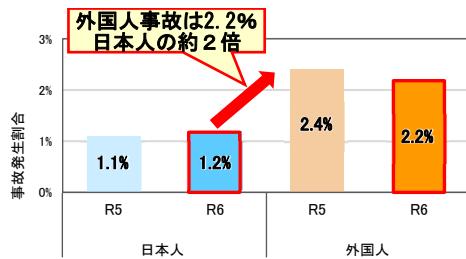


図-12 総貸渡台数から見る事故発生台数の割合

月別に見ると、1~2月、12月の冬期に事故が多くなっている(図-13)。



図-13 外国人レンタカー事故の月別発生台数の割合

(2) 外国人レンタカー事故の発生位置

外国人レンタカー事故(第1当)の発生位置は、「一般道」が約40%と最も多く、次いで「駐車場」の約20%となっている(図-14)。

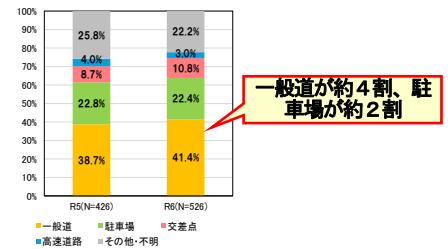


図-14 外国人レンタカー事故(第1当)の発生位置

また、北海道内の事故発生位置の分布状況を見ると、旭川・富良野地域や俱知安・ニセコ地域、函館地域で事故発生の分布が見られる(図-15)。

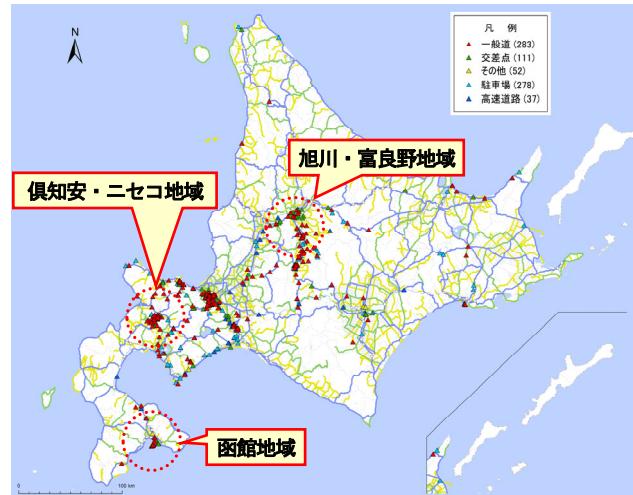


図-15 外国人レンタカー事故発生位置の分布

(3) 事故類型別の事故発生状況

外国人レンタカー事故(第1当)の事故類型は、「返却時発見」が19.8%と最も多く、次いで「駐車車両衝突」の13.9%となっているが、車両相互より車両単独の事故が多い傾向にある(図-16)。

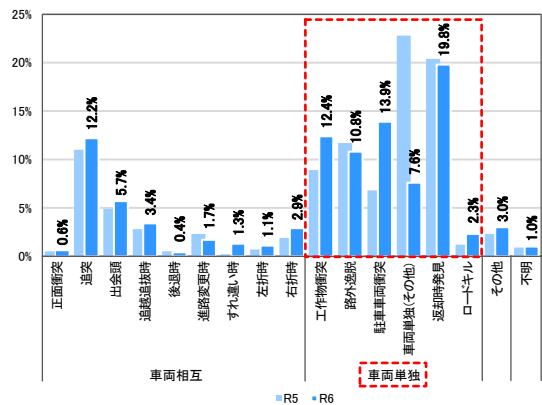


図-16 外国人レンタカー事故(第1当)の事故類型

(4) まとめ

外国人レンタカーの事故状況から得られた知見を以下の通りまとめる。

- 外国人の事故は日本人より約2倍の発生率である。
- 事故発生箇所は一般道が多く、高速道路は少ない。
- 北海道内の事故は、旭川・富良野地域、俱知安・ニセコ地域、函館地域に多く分布する。
- 車両相互事故より車両単独事故が多い。

5. 外国人レンタカーの走行経路・目的地分析

外国人レンタカーの走行経路や目的地について分析する。ここで使用するデータは、ETC2.0プローブデータに外国人レンタカーに関する分類がないことから、今回は株式会社トヨタレンタリース札幌から提供いただいた特定プローブデータ（令和6年6月～12月の7か月間）を用いることとした。

(1) 外国人レンタカーの走行経路

北海道における外国人レンタカーの走行経路について分析の結果、①旭川・富良野地域、②千歳・苫小牧・登別地域、③俱知安・ニセコ・洞爺地域、の3地域で走行台数が多い傾向にあることが分かった（図-17）。

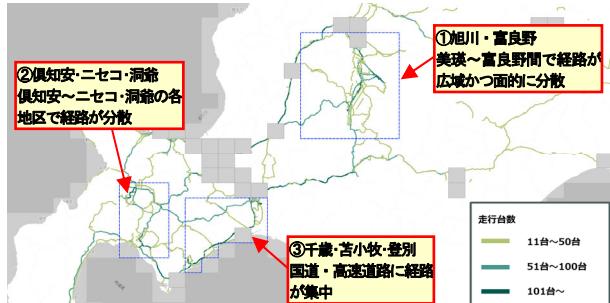


図-17 外国人レンタカーの走行経路

(2) 外国人レンタカーの目的地分析

次に外国人レンタカーの目的地について、ナビタイムジャパンデータの2次メッシュ単位（10km×10km）を用いて分析する。分析の結果、②と③の地域は、目的地が各地区の観光地に集中する傾向にあるが、①旭川・富良野地域では、目的地が広域かつ面的に分散する傾向が見られた（図-18）。

これらの傾向から、ルートやアクセスの分散傾向が見られる地域として、旭川・富良野地域を抽出し、詳細分析を行うこととした。

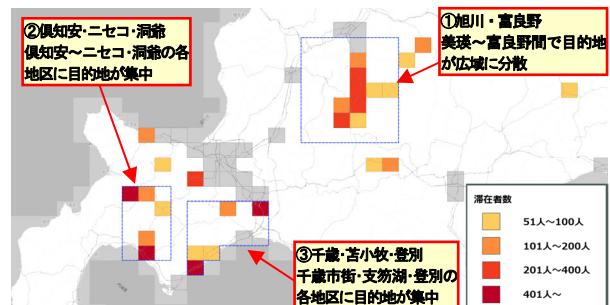


図-18 外国人観光客の目的地

(3) 旭川・富良野地域の外国人観光客の目的地と走行経路

旭川・富良野地域の走行経路と目的地について、3次メッシュ（1km×1km）を用いて分析すると、目的地が広域に分散しているため、走行経路は国道237号を主軸としながら目的地によってアクセス方法、ルートなどについて面的な分散が見られた（図-19）。



図-19 外国人観光客の目的地と走行経路

(4) 青い池を目的地とする車両の走行経路

分散している観光地のうち、美瑛町「青い池」に着目すると、美瑛町からのアクセスと上富良野町からのアクセスの2ケースが見られ、いずれも国道237号からの分岐付近で複数ルートによるアクセスが見られており、国道からのアクセスにおいて迷い交通が発生している可能性が想定された（図-20、図-21）。

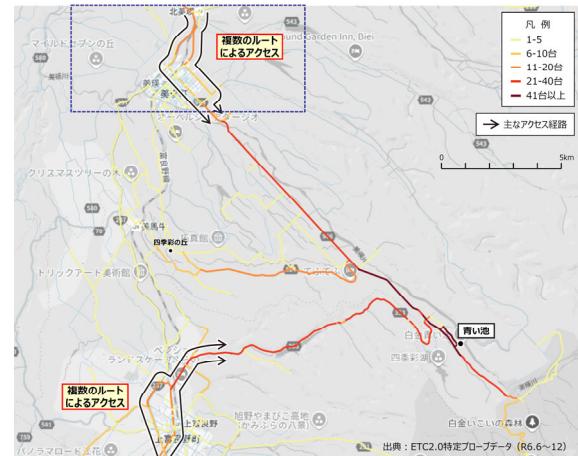


図-20 青い池を目的地とする車両の走行経路（広域）



図-21 青い池を目的地とする車両の走行経路（拡大）

(5) ETC2.0プローブデータの分析

青い池に向かう走行経路のうち、美瑛町市街地周辺の急挙動履歴を分析したところ、ルート案内をしている国道237号に比べて、並行する町道のルート上で多く発生している。また、急挙動が多く見られるルートは、郊外に集中し、交差点が連続している直線道路である（図-22）。



図-22 外国人レンタカーの急挙動履歴

(6) 目的地アクセスに関する道路案内の現状把握

旭川方面から青い池に向かうアクセスルート及び道路案内の現状を図-23に示す。国道237号においては、道路案内や白金温泉への案内が行われているが、道道側のアクセスにおいては、特に行われていない状況であった。

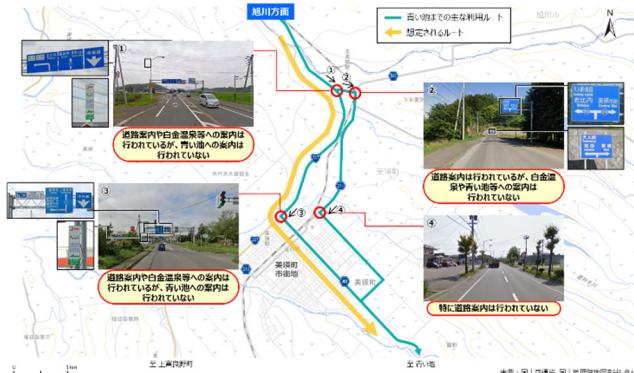


図-23 青い池周辺の道路案内の現状

(7)まとめ

外国人レンタカーの走行経路・目的地分析から得られた知見を以下通りまとめる。

- 外国人レンタカーの多い走行経路は、旭川・富良野、俱知安・ニセコ・洞爺、千歳・苫小牧・登別である。
- 目的地では、旭川・富良野地域において走行経路が広域かつ面的に分散する傾向が見られる。
- 青い池へのアクセスは、国道237号から複数ルートの走行履歴が見られる。
- 青い池までの道路案内において、案内標識が抜けている箇所があり、目的地への「迷い交通」が発生している可能性がある。

(8) 分析結果を踏まえた考察

これらの分析結果を踏まえ、青い池を目的地とする外国人レンタカー利用者が安全・安心に到着できる道路案内として、メインルートとなる国道237号の道路上に仮

設の案内標識（案）の検討を行った（図-24）。



図-24 青い池周辺の道路案内の試行（案）

7. 今後の検討に向けて

今回の分析により、把握した内容を以下に示す。

- 外国人レンタカーの各種分析用に用いた事故データ及び特定プローブデータは、データ量が少ないため、分析結果の妥当性検証が難しい。今後も継続してデータ取得を行っていく必要がある。
- 外国人レンタカー利用者を対象とするアンケート調査は、今回と令和6年度にも実施されているが、いずれも夏期～秋期の無雪期に行われている。このため、体験に基づいた回答になっていない可能性があるので、事故の多い冬期にも同様の調査を実施し、より具体的な危険要因の分析につながる意見を引き出すことが可能となる。
- 今後もアンケート調査を継続して実施することで外国人レンタカー利用者の意識や行動の変化を捉えることが可能となる。

以上を踏まえて今後、新たな交通課題に対し、対応策を検討していく予定である。

謝辞 : 外国人レンタカーの交通事故発生状況の分析に必要な事故データ及び特定プローブ情報の提供をいただいた「株式会社トヨタレンタリース札幌」様をはじめ、外国人レンタカー利用者へのアンケート調査にご協力いただいたレンタカーサービス事業者（順不同、敬称略：「ニッポンレンタカー北海道株式会社」「オリックス自動車株式会社」「タイムズモビリティ株式会社」）に感謝の意を表します。

以上

参考文献

- 1) 国土交通省観光庁：訪日外国人旅行者統計
- 2) トヨタレンタリース札幌：外国人レンタカー事故データ及び特定プローブデータ（令和5年～令和6年）
- 3) (財) 交通事故総合分析センター：交通事故統計データ